



令和4年度

松浪小だより

第10号

学校教育目標……『豊かな心を持ち、自律して行動できる子』を育む学校

目指す子ども像…『・進んであいさつする子・自ら学び、自分の考えが言える子・人の話が聞ける子
・元気よく友だちと遊ぶ子・進んで仕事をする子』

理想とする学校像……「共に学び 共に歩み 共に創る」

- ①児童や教職員が生き生きする学校
- ②保護者や地域から信頼される学校
- ③教職員が互いに研ぎ合う学校

令和4年10月31日(月)発行

茅ヶ崎市立松浪小学校 校長 安倍 武雄

運動会でも学ぶ



去る10月22日、最高のお天気とまでは言えずとも暑くもなく寒くもなく直射日光のないなかなかの運動会日和でした。保護者の皆様には、整理券のご記入や健康観察、午前午後の入れ替えなど、大変ご面倒をおかけしました。保護者の皆様にご協力いただけたからこそ大きな混乱もなく今年も無事運動会を実施することができました。本当にありがとうございます。

今年の運動会には子供たちに対し「挑戦」というキーワードを練習の時から投げかけてきました。それは、4月から先生方と話し合ってきた松浪小学校の子供たちの姿がもとになっています。

松浪小の子供たちは総じてスマートで、大抵のことはすらりと「こなして」しまいます。でも、欲張りな私などは「どうしてそこで力を抜いちゃうの…」「おいおい、君たちならもっとできるのに…」と残念な気持ちになることもしばしばです。また、難しすぎる課題に直面した時や、自分で課題を決めて解決しなければならない場面などを苦手とする面もあります。「まだあきらめるのは早いよ…」「本当に自分でやりたいことが見つからないのかなあ…」と、ついお手伝いしてあげたい気になったりします。

そういった話を先生方と積み重ねて、「やっぱり松浪小学校の子供たちに今つけてほしいのは「挑戦する力」だよね」ということになっていました。

そんな中、児童会の運営委員会が代表委員会を通して（つまり、松浪小学校の子供たちが全員で決めた）運動会のテーマは「心つながる 笑顔かがやく 燃えあがれ 花さく浪っこ 挑戦の道」というテーマでした。

「挑戦」といってもやみくもに突っ走るだけではあまりにも能がありません。やはり、自分なりのめあてなり目標なりを決め、そこに到達するにはどうしたらいいのか作戦を立て、





前向きに努力していったほしいのです。

そのために運動会ではそれぞれの学年や学級ごとに子どもたちの実態に合わせて、ねらいやめあてを考えてもらっていました。

「徒競走で去年より速くなりたい」「素敵なダンスを踊りたい」「完璧な組体操！」など自分になりたい姿を取組の前に決めます。学年によっては「そのために〇〇する」を考える学年もありました。そして、運動会に向けての「挑戦」が始まります。



いよいよ運動会当日。日々の小さな挑戦を積み重ねた結果を「発表」するときです。子供たち一人一人の顔が本当に輝いて見えました。あまりの出来栄に目頭が熱くなる場面もありました。結果はどうあれ、子供

たちは当日だけでなく、それに向かう毎日に少しずつ努力を積み重ねていたのでしょ

う。保護者の皆様には、子供たちの日々の「挑戦」の様子はどのように映っていたでしょう？「発表」の様子はいかがでしたか？そんな風に考えると、運動会は「運動」のための会ではないし、当日の演技だけが全てではないことがわかります。そこに向かう過程こそ、子供たちが大きく成長するチャンスなのだ改めて感じます。

それぞれのご家庭では運動会后、どんなお話が交わされたでしょうか。一人一人の成長を学校でも家庭でも大人たちが言葉にして伝えていく必要がありそうです。

「もの」で「やりながら」学ぶ



写真は、1年生が「長さ」の学習をしているところです。

大人が長さというとすぐにcmやm、あるいはヤード、マイルなどの単位を思い浮かべてしまいます。しかし、共通の単位を必要とするのは、ちがった文化をつなぐためのものですから、近現代になってから必要となったのです。

子供たちは、長さを比べるなら、「端

をそろえる」ことが必要だということはこれまでの経験でわかっています。でも、このノートのように切ったり折ったりできないときにどうすればいいのか考えます。「鉛筆が〇本ぶんだ」「消しゴムでもできるよ」となにか「もの」を媒介すればよいということに気がきます。でも、困ったことにあなたとわたしの鉛筆の長さは違うのです…。そこで、紙テープに決まった幅のしるしをつけて比べます。これなら、めもり〇〇分で共有することができました。小さい子ほど「もの」で「やりながら」学ぶこと、大切にしていきたいと思います。